



マーレイの幽霊

～受験生とリーダーシップの気付き～

一般社団法人 原子力安全推進協会 亀山 雅司 Masashi KAMEYAMA

1. マーレイの幽霊

冬の深夜に亡くなった同僚（ジェイコブ・マーレイ）がスクルージを訪ねてきて、困っている人の助けになりたくても、もはやどうすることもできない幽霊の身の上を語る。有名なチャールズ・ディケンズの「クリスマス・キャロル」の一節です（その夜、スクルージはマーレイがくれたチャンス・・・過去、現在、未来の自分を見ることで人生を変えることができます）。

2. 伝えられない！

「これさえ伝えてあげられれば・・・」私は3児の親として子供に教えてあげたいと切に願うとき、マーレイのように伝えることができないもどかしさを感じるがよくあります。なお、ここでいう「伝える」とは口に出すことと違います。口に出して伝えても事態が解決しなければ意味がなく、それでは「伝えた」ことになりません。単に物理的に情報が到達しているだけです。

例えば、典型的なのは「将来のために勉強なさい」ですが、小言を増やして子供が勉強するようになるなんて・・・ないですよ。それどころか、親は言っている内容が正しいために、分からない相手（子供）に非がある、と考えて効果のない行動（小言）を繰り返して、逆効果が起ちます。そして、子供も親もストレスを感じて家庭環境は負のスパイラルに陥ります。

3. ライフスタイルのチェンジ

アドラー心理学は、個人が持つ価値観や行動の仕方をライフスタイルと呼んでいます。そして、ライフスタイルを変えることなく行動を強要しても効果がない（行動の変化が継続しない）と説明しています。

ライフスタイルが変わるのは、外部からの力ではなく、自

らの気付きがあった場合です。先の例では、子供も「将来のために勉強する必要がある」ことを頭で理解しています。でも、自らの気付きに到達していないために行動に移らない。親に小言を言われる間だけ勉強したとしても（アメとムチ）、勉強の時間も深さも足りないため、親が望んでいる「勉強ができる」域には到達できません。

気付きは本人が得て初めて効果があるので、すぐそこに答えがある場合でも親は口に出せない。不用意に答えを口に出すと、情報があるが故に逆に気付きを遅らせる可能性もあります。

4. 受験生の気付きの事例

かくして高校受験を控えた子供の残り時間を数えながら、答えを口に出したいけど口にできない親心の葛藤・・・マーレイと同じ状態に陥ります。

では何をすればいいのか？さりげなく気付きの布石を置くことと、子供が気付いたときに支えられる環境を準備して待つことと、できた時にお祝いをすると思います。自問自答が気付きを早める効果があるので、話を聞いてあげるのもよいと思います。

でも、親が望む結論に誘導するような会話は逆効果になる場合があるので要注意です。

それでは、親はどこまで待つのか？については、子供が気付くまでです。例え代償が高いものについても、体が健康でやり直しができるのなら問題ない。高校受験の失敗くらいは one of them、リカバーできます。課題は、子供よりもむしろ、そういう状態を受け入れられる親の器の大きさかも知れません。

私の子供の一人は高校受験に失敗して初めて「本当に困った状態」に気付いたようです。その後、滑り止めで入った高校でトップを取り、今では「勉強の方が楽」だと考えているようです。その効果は継続的です。今の私の役目は試験結果がでたときのお祝いの「おめでとう！」を作ること

になりました（その辺りに興味のある方は、参考サイト [1]、[2] をご覧ください）。

かくいう私自身も似た経験があります。小学生の頃に（地元で少し有名だった父親の尽力で）姫路の有名な進学塾（セミナー INOKO）に入れて頂き・・・2年間ずっと最下位でした。昔のことなので竹刀で叩かれ、1枚あたり数時間かかる書き取りの宿題を何枚も出され、大変でしたがちっとも勉強ができるようにならなかった記憶があります。ところがある日の塾の帰り道に「あれっ、問題には意味がある」と気付いてから成績が上がりました。それも日頃の塾のスタイル・・・数行の問題を黒板に書いて、1、2時間後に先生が帰ってくる、という気付きを待つスタイルを貫いてくれたからのように感じます。

「問題に意味がある」のは常識以前だと思われるかも知れませんが、「正しい回答を当てる」ことに捕らわれていた私には、ほんの目の前にある単純な事実が見えていなかったのです。

ちなみに、子供が勉強をしないのに小言を言い続ける親も「気付かない」という点では同じです（気付いていました？）。私達は自分が考えているより単純なことに「気付きにくい」のです。

5. 原子力業界の気付きとリーダー

「気付き」による行動を目指す動きは原子力の業界にも見られます。2015年10月にWANO東京センターで開催されたリーダーシップセミナーに参加させて頂きました。日本で「リーダー」というと「俺について来い」の指示者の感じがありますが、WANOではリーダーは模範を示しながら気付きを与える・・・自然にフォロアーがつくような存在だと考えているとのことでした。

リーダーは質問を多用しますが、答えは言わない。その

結果、例え不十分な対策しか出てこなくても、相手から自主的にでてくる対策が「相手が実際に実行できる上限」だと考えているとのことでした。そうなるとリーダーによる継続的なオプザベーションによる各人の事態の把握と問いを通じた改善が重要になってきます。リーダーという言葉は同じでも、「俺について来い」と「気付き」では随分異なった関係にあります。

もし、「質問のみ可。回答不可」を自分に徹底してみると、新しい世界が見えるのかも知れません。

どうでしょう？今週1週間だけチャレンジしてみませんか？

参考サイト

[1] 技術士のラポール広場, "子供の受験が心配で仕方がない!", (参照 2015-11-5)

URL: <http://engineer-pro.org/page05030.html>

[2] 技術士のラポール広場, "泳げない？泳ぎたい？", (参照 2015-11-5)

URL: <http://engineer-pro.org/page05012.html>

(平成 27 年 10 月 21 日)

著者紹介



著者：亀山 雅司
所属・役職：原子力安全推進協会
安全性向上部副部長
専門分野：機械設備の保全技術の開発と現実化、心理コーチング